

陸上自衛隊小平学校の教育を支援



自衛隊神奈川地方協力本部（本部長 夏井隆一海佐）は、6月17日（水）、神奈川地本本部（横浜市）において、陸上自衛隊小平学校が実施する「第56期幹部特修課程（警務科）教育」の現地訓練を支援した。

当日、神奈川地本は学生4名に対して、全国的に厳しい募集環境や、自衛隊における就職援護施策、予備自衛官等制度の概要及び神奈川地本における業務実施状況等について教育を行い、自衛隊地方協力本部の現状と課題について理解を得た。

また、リニューアルオープンした神奈川地本広報センターにおいて、特別企画展「装備品の模型展示」の見学を実施し、学生からは陸海空自衛隊の多くの展示品に対して感嘆の声が聞かれた。

神奈川地本は「今後、部隊で活躍が期待される学生に対して、自衛隊地方協力本部の現状について理解してもらえたことは、将来の活動において大変有意義であると考えている。今後様々な部隊と連携し、自衛隊地方協力本部の活動に対する理解と協力を獲得し、目標達成に向けてまい進していきたい」としている。



広報センター見学風景



学生に対する教育風景



自衛官候補生が課程教育終了前に担当事務所を訪れる 「整理整頓が上手になった！」



左から平原所長、笈川候補生、石村曹長



右から宮本募集課長、石村曹長
笈川候補生の家族、笈川候補生

自衛隊神奈川地方協力本部横浜中央募集案内所（所長 平原一陸尉）は、6月19日（金）自衛官候補生教育隊（久里浜）に入校中の女性隊員（笈川候補生）の訪問を受けた。おいかわ

笈川候補生は、昨年秋に当事務所に志願し、今年3月29日（日）に陸上自衛隊久里浜駐屯地に入隊して自衛官候補生過程で教育中のところ、6月末に当課程を終了予定であり、職種・任地が決定したことにより挨拶、報告のために当事務所に訪れた。教育期間中は、新型コロナウイルスの影響により外出等も制限されるなどしたが、教育課程を我慢強くやり遂げ、立派に成長した姿を見た。職種が同じである募集課長とも懇談し、部隊の説明や経験談を真剣な眼差しで聞き入っていた。入隊して良かったことを問われると「整理整頓が上手くなり、入隊時に比べ規律正しい生活が苦にならなくなった」と笑顔で答えてくれた。「皆さんの話を聞いて、不安を解消できました。配属先でも同期と仲良く頑張ります」と力強く話し、事務所を後にした。

横浜中央募集案内所は「入隊者の成長した姿を見て、益々やり甲斐や誇りを持って募集広報活動に臨み、防衛基盤の拡充に努めていきたい」としている。